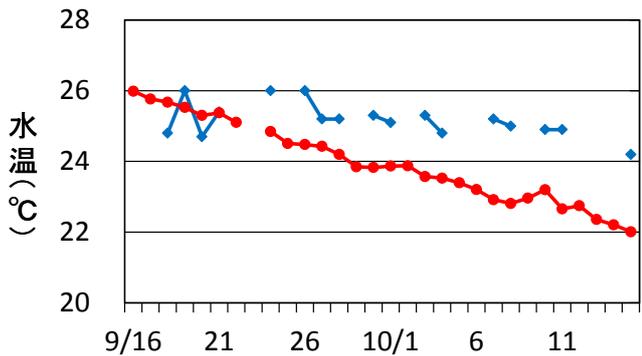




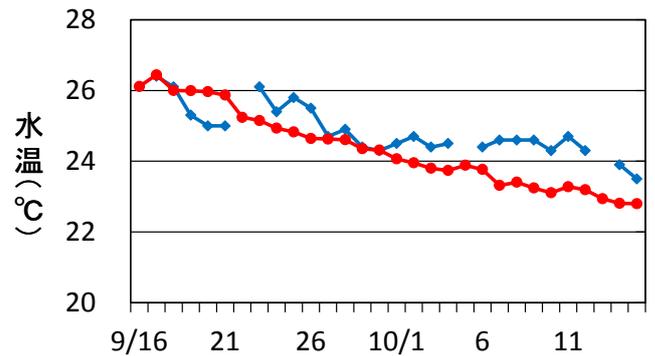
## 【海の状況 (9/16~10/15)】

神子表面水温・・・9月中旬は概ね平年並み（過去30年平均より±0.5℃程度）で推移していたが、9月下旬はかなり高め（過去30年平均より1.0～1.5℃程度高め）、10月以降は概ねはなはだ高め（過去30年平均より1.5～2.0℃程度高め）で推移していた（図1）。

米ノ表面水温・・・9月は概ね平年並み（過去15年平均より±0.5℃程度）で推移していたが、10月はかなり高め（過去15年平均より1.0～1.5℃程度高め）で推移していた（図2）。



◆ 神子(本年) ● 神子平年(過去30年平均)  
図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(本年) ● 米ノ平年(過去15年平均)  
図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温・・・2013年10月上旬の若狭湾沿岸域は15～16℃台の水域が広がっており、昨年の同時期と比べて概ね1～2度程度高めの水温分布となっていた（図3、4）。

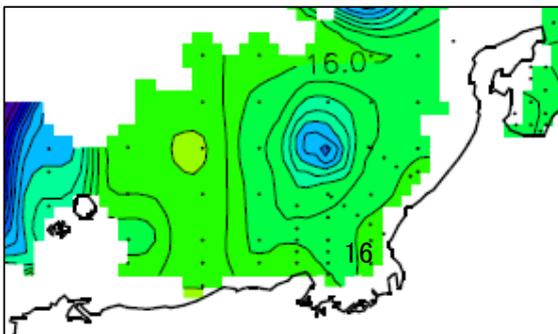


図3. 2013年10月上旬の100m深水温

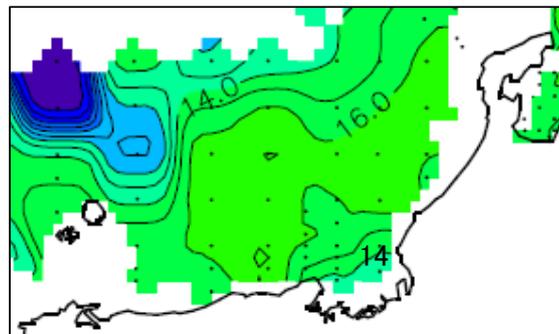
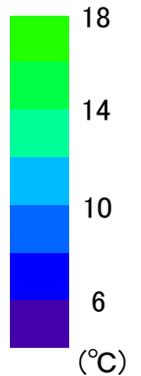


図4. 2012年10月上旬の100m深水温



資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

## 平成25年度 第3回 日本海海況予報

(独)水産総合研究センターより、平成25年10～12月までの日本海海況予報が発表されましたので、その概要についてご紹介します。

- 能登半島北西の暖水域は隠岐諸島東方の暖水域と合体して能登半島北西に大型暖水域を形成する。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、かなり弱めで経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、やや高めで経過する。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部および北部ともやや高めで経過する。

なお、詳しい内容は(独)水産総合研究センターのホームページ (<http://www.fra.affrc.go.jp/>) から閲覧することができます。

(宮田克士)

〔県内の漁模様：9月〕

2013年9月の県内の総漁獲量は1,453tで、昨年同月を484t上回った。

定置網

漁獲量は1,089tで、アジ類、サバ類、ブリ（主にハマチ・ツバス・アオコ銘柄）、サワラ等の魚種を中心に前年同月を550t上回った。一方、シイラ等は前年同月を下回った。

底びき網

漁獲量は288tで、アカガレイ、ニギス等の魚種を中心に前年同月を56t下回った。

釣り・その他

漁獲量は76tで、キダイ、ソデイカ等の魚種を中心に前年同月を10t下回った。一方、ケンサキイカ等は前年同月を上回った。

(単位：kg)

定置網			
魚種	2013年	2012年	03-12平均
カタクチイワシ	5,486	260	11,473
アジ類	33,771	24,042	65,042
(アジ)	19,882	5,945	26,553
(小アジ)	9,975	17,116	35,356
(アオアジ)	3,915	981	3,132
サバ類	33,186	1,361	15,443
(サバ)	28,407	1,265	11,684
(ピンサバ)	4,779	96	3,759
カジキ類	4,279	8,027	12,982
カツオ類	2,469	2,153	2,331
ブリ	224,611	22,714	135,983
(ブリ)	15	0	219
(ワラサ)	1,324	166	13,078
(ハマチ)	40,267	2,989	10,094
(ツバス)	148,077	11,158	95,436
(アオコ)	34,927	8,401	17,156
ヒラマサ	38,227	6,202	9,412
シイラ	66,953	175,617	72,648
サワラ	571,400	252,442	240,801
カマス	36,844	16,930	10,826
フグ類	14,762	1,152	7,557
アオリイカ	16,696	9,151	7,061
ケンサキイカ	5,344	3,865	7,037
合計	1,088,588	538,524	622,721

底びき網のつづき			
魚種	2013年	2012年	03-12平均
アナゴ	4,959	4,319	3,868
ハタハタ	1,153	1,982	2,665
メバル類	1,422	1,659	1,102
ニギス	11,804	14,577	13,323
スルメイカ	1,026	1,211	818
ケンサキイカ	2,260	2,419	2,197
タコ類	6,729	7,805	7,881
アカエビ	47,492	46,541	58,097
その他エビ	4,471	7,569	5,247
合計	287,632	343,664	318,221

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2013年	2012年	03-12平均
マダイ	2,188	2,659	3,305
キダイ	6,041	10,353	6,797
アマダイ	3,167	4,035	5,180
その他カレイ	792	1,069	440
メバル類	3,305	1,605	3,196
アオリイカ	2,286	2,161	2,195
ケンサキイカ	8,649	1,099	9,354
ソデイカ	17,897	27,964	11,706
タコ類	2,127	3,509	4,785
合計	76,287	85,867	84,597

底びき網			
魚種	2013年	2012年	03-12平均
マダイ	1,902	1,497	1,933
チダイ	1,328	635	849
キダイ	10,349	10,478	12,799
アカガレイ	89,810	93,884	74,006
その他カレイ	34,488	34,877	55,808

総計	2013年	2012年	03-12平均
	1,452,506	968,056	1,025,538

※（ ）は銘柄別の漁獲量  
 ※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類  
 ※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況……石川県：9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：9月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月中旬～10月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬の1統あたりの漁獲量。)

石川県……定置網……ブリ（フクラギ・コゾクラ銘柄）6.5t、シイラ2.9t、マアジ1.1t、カマス1.1t。

京都府……定置網……サワラ・サゴシ12.0t、ブリ（ハマチ・ツバス・アオコ銘柄）8.3t、カタクチイワシ2.7t、アカカマス2.3t、マアジ1.3t、シイラ0.8t。

兵庫県……定置網……アジ類54kg、ブリ（ツバス銘柄）31kg、カワハギ16kg。

鳥取県……まき網……マアジ47.5t、マイワシ16.5t、ブリ類5.5t、マサバ5.1t、ウルメイワシ4.6t、カタクチイワシ2.9t。

(宮田克士)

## 「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。水産試験場で実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

### 漁獲動向：

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であった S54 年度以降は増加傾向にあり、近年は 500t 前後で推移しています。H24 年度は、水ガニとセイコの水揚げが前年度の 1.5 倍と豊漁になりました（図 1）。

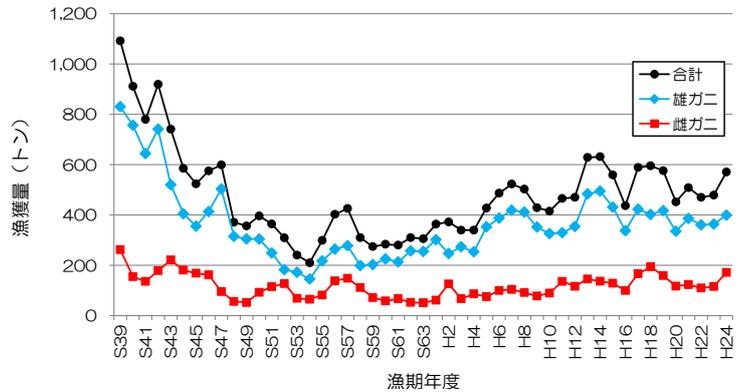


図 1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

### 卓越年級群（他の年に比べて加入量が多いた年齢）：

H21 年の調査で確認された卓越年級群は、昨年からの漁獲対象サイズとなり、昨年度の水ガニとセイコの豊漁要因となりました。雄については取り残しが比較的多く、今年もこの年級群が漁獲の中心になると考えられます。

一方、雌については取り残しが少なく、また、今年加入する年級群の豊度も小さいことから、昨年のような豊漁は期待されないでしょう。

来年以降に漁獲対象となる 10 歳以下の各年級群は、豊度が十分あることから、安定した漁獲が見込まれるでしょう（図 2）。

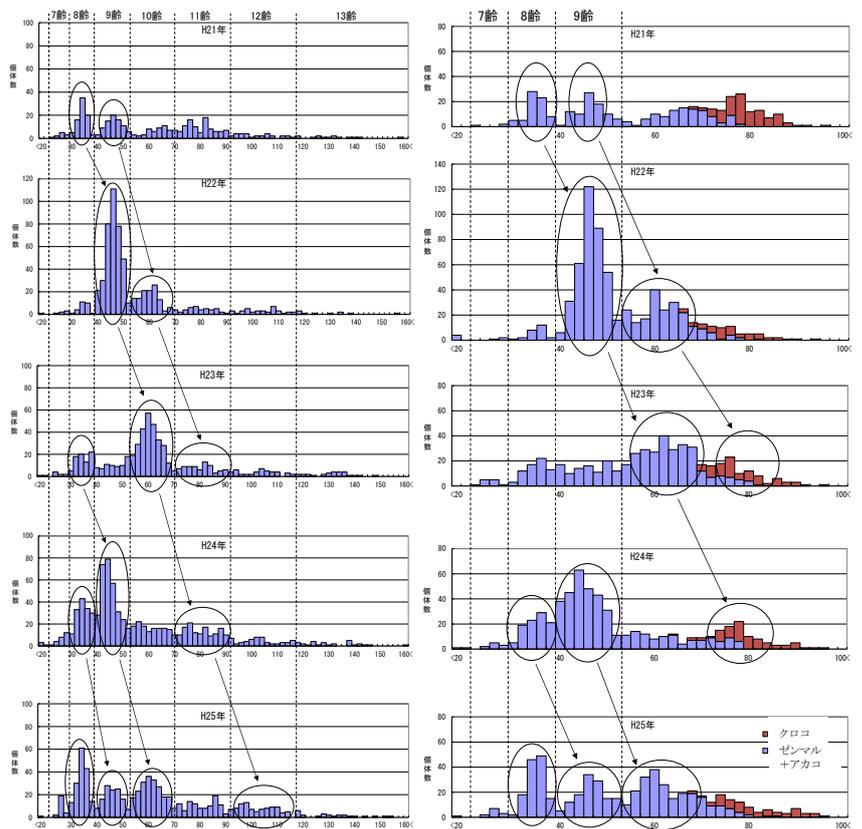


図 2 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（左：オス、右：メス）

### 推定資源量：

今漁期に漁獲対象となるズワイガニの資源量を推定したところ、雄ガニは昨年（1,782t）を上回る 2,202t、雌ガニは昨年（446t）を下回る 298t と算出されました。

今漁期から水ガニとセイコの漁期が短縮されるため、漁獲量は雄雌ともに昨年を下回ることが予想されます。

（河野展久）

## トラフグのハダムシモニタリング調査について

暑かった夏が過ぎ、水温が低下し始めると、トラフグ養殖は最も注意を必要とする時期を迎えます。寄生虫のネオベネデニア・ギレレ（以下、ハダムシ）が急激に増加し、トラフグに大量に寄生すると、腹部の発赤、スレやビラン、眼球の白濁、食欲の低下などの症状がみられ、悪化するとへい死に至るといった被害が発生するからです。

このため、水産試験場では、ハダムシによる被害を防ぐため、トラフグ養殖業者のみなさんや水産業普及指導員と協力し、ハダムシのモニタリング調査と情報提供を実施していますのでご紹介します。

**経緯：**水産試験場では、平成20年度にハダムシ発生海域において、淡水浴実施後にハダムシの動向を調査しました。ハダムシ発生後、すぐに淡水浴を実施した生簀では、8月12日以降ハダムシの蔓延はみられず、終息を迎えました（図1）。また、ハダムシの大きさが産卵可能な2mmになる前に駆除することで、その後の発生が抑えられる傾向がみられました。そこで、いち早くハダムシの発生状況と動向を把握し、被害の軽減が図られるよう計画的に駆虫作業を実施するため、モニタリング調査を実施し、関係者に情報提供しています。

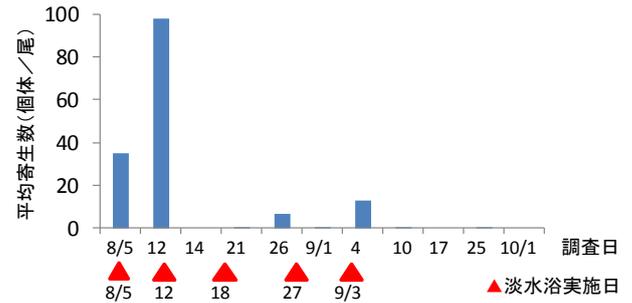


図1 ハダムシ発生海域における駆除事例 (H20)

**実施方法：**モニタリング調査は、ハダムシの発生がみられる8月下旬から終息する12月上旬にかけて、発生状況を見ながら、週1回程度実施しています。今年度は、高浜町日引・神ノ浦地区、小浜市阿納・西小川地区、敦賀市色地区において実施中です。

まず、各養殖場において、モニタリングを実施する生簀を決めます。養殖業者は、その生簀から10尾程度のトラフグを採取し、3~5分程度の淡水浴を実施した後、水のみを持ち帰ります。その水を、水産業普及指導員または水産試験場職員がネットで濾し、ネットに残ったものを顕微鏡下で観察します。ハダムシが確認できた場合は、数と大きさを記録します。

**情報提供：**ハダムシ発生調査の結果は、週に1回、養殖業者の方々をはじめ、各養殖場や関係団体へFAXまたはメールでお送りしています（図2）。ハダムシの発生がみられる高浜町および小浜市の各養殖場では、ハダムシの動向をみながら淡水浴が実施されており、現在までのところハダムシによる大きな被害はみられていません。

関係者がいち早く情報を共有し、早めに淡水浴や網替えなどの駆虫作業を行うことが蔓延防止につながりますのでご協力をお願いします。

(渡智美)

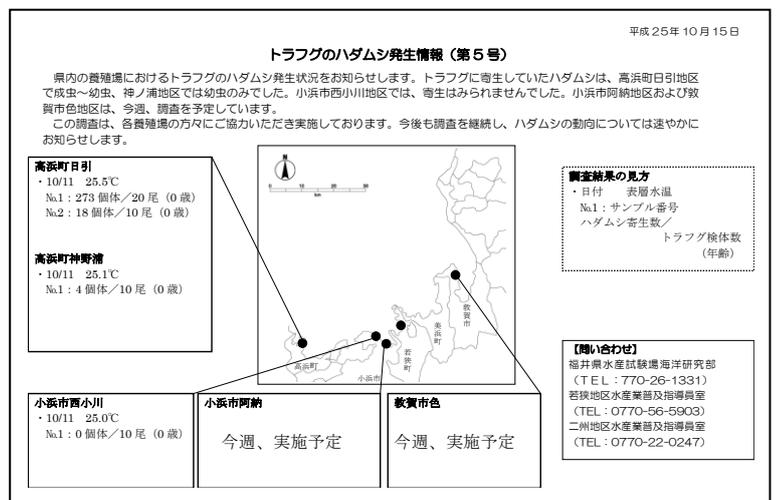


図2 トラフグのハダムシ発生情報